

令和2年度 足利中央特別支援学校 学校評価シート

教育目標、目指す児童生徒像、教師像、学校像

教育目標	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行うことにより、その能力や可能性を最大限に伸ばし、地域社会の中で主体的に生きる力を育成する。
目指す児童生徒像	○目標に向かって意欲的、主体的に取り組める児童生徒 ○自分の良さ、相手の良さに気付き、認められる児童生徒
目指す教師像	1 常に「子ども達のために」という意識をもてる教師 2 「授業をつくる力」の向上に努力し続ける教師 3 相手の心情に寄り添った対応を大切にできる教師 4 児童生徒・保護者・地域社会から信頼される教師
目指す学校像	1 安心・安全な学校 2 児童生徒が意欲的に学べる学校 3 地域社会に開かれた学校 4 教職員がやりがいを感じられる学校

令和2年度努力点 評価基準 A:達成できた(80%以上) B:概ね達成できた(50～80%) C:あまり達成できていない(20～50%) D:達成できていない(20%以下)

重点目標	推進担当	達成目標（評価項目）	評価の観点	評価	考察	改善策	評議委員評価	学校の今後の取組
1 安全指導及び防災体制の充実を図るとともに、教育、安全・健康教育、防災教育を推進する。 ○日常生活指導及び各種訓練や安全学習・安全指導の充実を図りながら、児童生徒が自らの安全・健康を守るために必要な判断や行動ができるようにする。	健康指導部 児童生徒指導部 学校安全対策委員会	・児童・生徒への安全学習、安全指導として、教員の学校安全・健康安全・防災安全への意識（危機管理意識）を高め、児童生徒への指導に活かす。	・感染症への対策、安全点検を始め、学校安全、健康安全、防災安全を危機管理意識をもって進める。 ・研修（危険予知トレーニング・ヒヤリハット）を通じて、危険予知の大切さ、リスクを減らすための工夫や考え方を知り、児童生徒への指導に活かすことができたか。	B	・職員研修の成果として、適切な対策を講じることで危険回避できることを共通理解し、グループで行ったことで「自分では気づかなかった危険・思い浮かばなかった対策」を共通認識し、危機管理意識を高めることができた。 ・児童生徒への指導に対しては、研修後のアンケートにおいて、具体的な場面や状況をイメージし、実践しようと考えている教員が多くなった。	・研修において得られた、教員自身の危機管理意識を継続させつつ、次年度はさらに、組織的に児童生徒への指導へ結びつけていく。また、健康安全（コロナ感染症対策）についての課題や、教員に対しての防災安全対策についての意見に対し、今後、検討していく。	・身近な場所（学校内の共同の場所や公園）などの写真を振り、生徒達にもKYIT教育を受講させてはどうか。 ・KYITについてはアキレスなどで40年ほど前から行われており、私の法人でも自動車運転で数年前から取り入れている。今回、研修を行い、とあるがKYITは危ないと思われる事を普段から想定する訓練の中から、実際の現場でも危険をいち早く見つけるよう注意する訓練で、一人一人が習慣的になるよう、訓練を重ねていく必要がある。忙しい中大変そうだが、研修を行っただけでは、まだ、第一歩にもなりません。 ・安全な学校であるためには教職員の危機意識や危険予知が大事な要素かと考えているが、具体的場面を想定して話し合う研修の内容を見せていただき、子どもたちの実態に応じた予知や対応策のアイデアがすばらしいと感じた。このような研修の継続でさらに安全な学校になっていと感じた。	・現在も一部で取り組んでいますが、今後も継続して取り組んでいきます。 ・今年度の研修を元に普段の学校生活の危険を考えながら、教員の意識を高めていき、引き続き研修も重ねてまいります。
2 児童生徒の自立・社会参加に向けたキャリア教育の充実を図る。 ○各学部段階及び児童生徒の実態に応じた「人と関わる力」の向上を目指した指導の重点及び指導方法の定着を図る。	キャリア教育推進委員会 進路指導部 学習指導部 各学部	・キャリア教育の人間関係形成能力の育成に焦点をあて、人と関わるための「挨拶」や「場に応じた言動」ができる児童生徒の育成を目指した指導内容や指導法の確立を図る。	・「挨拶」や「場に応じた言動」について、各学部のキャリア教育の視点を意識して、授業を展開、繰り返し実践する中で、児童生徒に変容が見られたか。	A	・日々の挨拶場面での指導だけでなく、自立活動や道徳の学習時間に、挨拶の仕方や礼儀の大切ななどを取り扱ったり、学級で挨拶の様子について振り返ったりすることで、児童生徒の挨拶に対する意識の高まりと主体的に挨拶する態度の定着につながった。また、児童生徒によっては個別の指導計画に挨拶に関する目標が児童生徒に与える影響も大きいことを教員が意識し、見本となるよう、定期的な啓発の方法について検討したい。	・キャリア教育推進委員会（年3回予定）で学部ごとの取組状況について情報を共有する場を設けているが、一貫した継続的な取組を進めるためには、常時、情報を共有できるようPDCデータ上や掲示板等を活用する方法が考えられる。また、日頃の教員の挨拶習慣や言葉遣いが児童生徒に与える影響も大きいことを教員が意識し、見本となるよう、定期的な啓発の方法について検討したい。	・挨拶について、障害によっては目を見られない児童もいるが、その点も工夫しているようで良い。 ・学校全体で歩調をそろえて取り組んだ挨拶の指導では、発達段階に応じた適切な具体策を実践したことで、子どもたちの意識が高まり、主体的行動につながった様子を知り、大きな成果を得られたと思います。学校が訪問できるようになったら、子どもたちと挨拶をかわせることを楽しみにしている。	・挨拶は継続して取り組んできて一定の成果が見られました。今後は意識しなくても、自然に挨拶が交わされるようにするため、引き続き取り組んでいきます。
3 地域と連携した学校作りを推進する。 ○開かれた教育課程の実現に向けて、学校からの情報発信の定着と地域の教育資源を活かした取組の充実を図り、障害のある児童生徒に対する地域の人々の理解を深められるようにする。	教務部 渉外部 地域連携係	・本校や特別支援教育の理解・啓発のために、ホームページの定期的な更新を確実にに行い、興味関心につなげる。 ・地域連携一覧等から地域の教育資源を活かして地域連携活動を実践し、活動後にアンケート等を実施して障害児者への理解度を把握する。	・HP更新計画に基づき、毎月15日と月末には更新することができたか。 ・行事等の実施計画にHP更新担当を位置づけ、適宜発信することができたか。 ・地域住民や地域の諸団体を招いて授業を実施し、実施状況を発信することができたか。 ・地域の人々の障害児者に対する理解度や、よりよい地域連携活動の在り方をアンケート等で明らかにできたか。	B B	・中止となった行事が多く、昨年度に比べると更新回数は少なかった。その中でも、更新計画に基づき更新することができた。 ・学校再開後、すぐに地域連携研修を行ったので地域連携の重要性を周知、共有できた。コロナの影響により、実施に至らなかった授業はあったが、過半数は実施でき、HPで発信することができた。 ・活動後のアンケートは、授業例が少なかったが、障害児者に対する理解度についての結果を得ることができた。	・行事のみならず、普段の学習の様子を載せるなどを周知し、定期的に更新しようとする教員の意識を高めている。 ・地域連携研修は4月に実施し、早めに関地域連携教育が計画的に実施できるよう、係からの周知、声掛け等を行っていた。 ・アンケートの実施については引き続き行い、今年度との比較をしながら、アンケート内容、実施方法、教員へのフィードバックについて検討を続けていく。	・コロナ感染のため、いろいろな問題もあり思うようにできない1年だったと思う。 ・コロナ禍で活動が制限される中、工夫や配慮をこらしての楽しそうな活動の様子などを定期更新しているHPで見せていただくことができた。コロナ禍が収まり、次年度になったらさらに人と人との交流が豊かになるような地域との連携ができることを望む。	・今後もコロナ感染症が続くと思われるが、できることを工夫し、地域との交流を行っていききたいと考えています。
4 教職員一人一人の専門性及び授業力の向上に向けた取組を推進する。 ○「主体的・対話的で深い学び」を意識し、各自の「授業をつくる力」の向上に継続して取り組む。	教務部 学習指導部 各学部	・「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を展開するため、一人一回の主旨導の公開授業と検討会を行い、授業作りのPDCAサイクルの更なる定着を図る。 ・児童生徒が自発的・意欲的に取り組める授業作りに努めるため、学習指導要領の3つの柱をもとにした目標や学習内容を整理し、各教科や合わせた指導等の展開計画を整備する。	・主体的に授業を公開することができたか。 ・授業の展開の中で「主体的・対話的で深い学び」を意識した活動を取り入れることができたか。 ・授業の良い点・改善点を検討し、次の授業や指導でどのように活かしていくかを検討することができたか。 ・年間指導計画の目標が「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう力・人間性の涵養」のどれにあたるか、確認や記入を行い、展開計画に反映させることができたか。 ・展開計画の充実を図り、児童生徒の自発性や意欲を引き出すための授業作りを行うことができたか。	B B	・ほぼ全員が公開授業を行うことができた。略案の中にも「主体的・対話的で深い学び」の指導内容が入り、意識した展開をすることができた。 ・参観するのが難しい。 ・公開授業をすることが目的になっていることが懸念される。 ・学習指導要領の改訂に合わせて、各学部で生活単元学習を中心に、年間指導目標への3つの柱の記入が進められてきている。展開計画への反映や、各教科の目標の確認をさらに進めていけると良い。 ・公開授業に「主体的・対話的で深い学び」に関する内容が入ったことで、意識した授業作りに取り組めている。	・何を目的とするかで、達成目標や実施の方法を見直す必要がある。PDCAサイクルでの授業作りを求めるか、主体的・対話的で深い学びを深める授業作りをするのか。 →PDCAサイクルで授業作りをする。公開授業を行い、確実に参観と検討会を行えるように、学年等の担当者間で調整をする。 →授業・授業検討会を深める。学年等での授業を公開。他学年・学部等からは必ず参観するようにする。時間を設定し検討会を行う。 →参観に重点を置く、公開授業は行わず、問題意識を持って他の授業を参観する。PDCAサイクルの観点ははずす。	・先生方は大変がんばっていらっしゃる。ただ、もう一歩踏み込んで、学校の流れと本人の気持ちの不一致の時、時間だからとせざるでなく、何を求めてその様な行動に出るのか？も考えてみていただけたとよりよい方向に向かかと思う。	・現在も児童生徒の様子を見て、行動分析も行いながら指導に取り組んでいますが、引き続き教員が意識しながら指導できるように取り組んでいきます。